

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第153号

nanae historical
museum collection

ななえ古写真物語 VOL. 153

ある日の日常

謎の東郷館

大正6年頃か？

大沼地区



写真は、大沼地区を撮影したものである。後ろに見える駒ヶ岳の位置から、場所は現在の道道大沼公園線338号線の消防署のあたりから撮影されたものではないかと考えているが、現在と道路の位置が異なる可能性もあるので定かではない。時期については、道路脇に植えられた樹木に紛れて、電柱が設置されていることから、大正時代6年頃かと推測している（大沼市街地に電灯がともったのがこの頃といわれている）。

大沼でも、この辺りは明治30年以降に、開拓が進んだ地域である。推測通りの年代であれば、まだ村が出来てから間もない計算となる。裏付けるように、道路右側には建物が軒を連ねているが、小沼側となる左側は草地となっており、建物が少なく、まだ開発が進んでいない頃であることがうかがえる。

さらに、自動車が走っている様子はなく、馬にまたがる人の姿がある位なので、時間がゆっくり過ぎているように感じる。また、和服姿に学生帽をかぶった子どもの姿や、薪にするのだろうか、一定の長さに切りそろえられた木が積みまれている様子からも、まだ村が整備されていないことを想起させる。

この鷹揚な時代の日常を切り取った写真の中で、少し異質に感じるのが右手前に建てられた立札である。柱の部分が斜めの縞模様となっており、注意喚起を促す標識とも思えるのだが、画像を拡大してわかったのは、板面に「東郷館」と記されていることである。

管見の限り「東郷館」については、見たことも聞いたこともない。七飯町史をはじめ、大沼の歴史を記した文献を調べてはみたのだが、はたしてそれが商店なのか旅館なのか、それとも別の何かなのか、全く見当がつかない。一方で、すぐに脳裏に浮かんだのは、ピチャリ第43号でも紹介した、日露戦争時の海軍大將だった東郷平八郎の銅像が、明治39年に、大沼に浮かぶの北垣島（現在の東郷島）に設置されたことである。あるいは、銅像に因んだ施設なのかとも考えたのだが、場所的にも公園とは離れていること、何よりも文献的な証拠がないため、想像の域を脱しない。

明治後半から昭和初期にかけて、大沼地区は目覚ましい発展を遂げ、多くの絵葉書や記録が残されているのだが、それでもまだ知られていない、文字記録として残っていない歴史が眠っていることを教えられた写真である。

豊かな実りのために

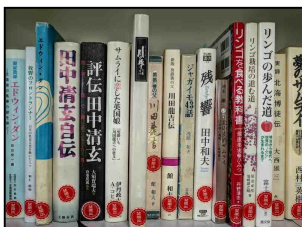
秋は実りの季節。歴史館の屋外展示の見本園では、ニュートンリンゴ、タムラリンゴ、ガルトネルブドウを育成しています。春先からの防除作業や草刈、摘花・摘果を職員が行っています。実が大きく成り始め、ブドウの色も色づく頃、様子を窺っていたのは、カラスや落ちたリンゴに群がる蜂でした。駐車場に面しているため、危険も多く、対策を練った結果、見本園に黄色の光る糸を、張り巡らせることにしました。脚立に上り、糸をピンと張るのは、意外にも大変な作業です。ときどき芝生の上を歩くカラスや電線にとまるカラスに目を配らせ、今年のリンゴが無事に実ってくれるように、と願っています。また玄関前の「もちアワ」も穂を付け始めました。5月末に非常に細かいタネを鉢に蒔いて育てていましたが、4か月ほどで丈が120センチにまで成長しました。「もちアワ」はこれが4度目の挑戦です。天候や肥料、水やり、様々な条件下のもとに、今のところ2勝2敗。今年は日々のお世話のご褒美に少し食してみようかと思っています。



郷土ななえの本

学習サービス室は、町民の研究室としての利用を目指し、設置されました。町史や村史、八王子千人同心の史料や駒ヶ岳の噴火史、町内発掘調査の報告書などが揃っています。七飯に関わりのある人物「村橋久成」や「田中清玄」、「川田龍吉」の本も取り揃えています。

気になった人物から、郷土の歴史に興味を持ち、更に研究へと進めていく。そんな皆さまのお手伝いをすべく、私たちの町の研究室は存在しています。



編集後記 ~tawagoto~

残暑が厳しい。9月も下旬に向かっていくのに気温は30 近くの日々が続いている。しかし、日が落ち始めると、辺りにコオロギの鳴き声が響くようになった。空を見上げると、雲がうろこを描いている。暑くても、着実に秋が近づいていることを知る。今年は、植物標本を作るために町内を走りまわり、多くの生き物の存在を感じているためか、季節をより身近なものに思う。忙しくとも、こういう時間を大切にしたいと思う。（やまだひさし）

10月の予定

1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火 ピチャリ153号発行
21	水
22	木
23	金
24	土 ジュニア探検クラブ
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木
30	金
31	土

10月の休館日はありません。

日々の草花

展示に添えられている、ヤマハハコ。英名はいつまでも変わらない真珠のような花。和名も英名も情緒豊か。



~ピチャリ~
Pichari 第153号

令和2年9月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp